

(電子メール施行)
農技第 1246号
令和2年9月16日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察防除情報第2号を發表します。県北部地域において、果樹カメムシ類が増加しており、被害につながるおそれがあるので、適切な防除指導をお願いします。

令和2年度 病害虫発生予察防除情報 第2号
果樹カメムシ類の防除対策について

- 1 対象作物** 果樹類 (特にナシ、カキ)
- 2 病害虫名** 果樹カメムシ類
(主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)
- 3 発生地域** 県北部
- 4 発生状況と今後の予想**
 - (1) 今年度は、越冬世代成虫の果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ) が多いことから、発生予察注意報第1号を5月28日に發表し、注意を喚起してきたところである。
 - (2) 果樹カメムシ類のフェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は、例年8月中旬から減少傾向を示すが、朝来市では、チャバネアオカメムシの誘殺数が増加しており、8月下旬の誘殺数は、フェロモントラップ278頭 (表年の過去3年分平均55.1頭)、予察灯182頭 (同過去5年分平均188.6頭) と、表年の過去平均と比較して同等～多い状況にある (図1、2)。
 - (3) また、朝来市の予察灯では、8月の中旬以降、ツヤアオカメムシ誘殺数の急増がみられており、8月下旬の誘殺数は89頭 (表年の過去5年分平均4.3頭) と、表年の過去平均と比較して多くなっている (図3)。
 - (4) 今後1か月の気温は平年より高いと予想されていることから、果樹カメムシ類の活動性が高い状態が継続すると考えられる。ナシにおいては、局地的であるが、9月に入ってから飛来による被害も確認されており、これから収穫期を迎える果樹類においては、吸汁による果実被害に注意する必要がある。

5 防除対策について

- (1) 果樹カメムシ類の飛来時期や飛来量は園地によって異なるので、園地毎に見回りをし、発生を認めたら速やかに防除する。特に、山林に近い園地では飛来を受けやすいので注意する。
- (2) 果樹カメムシ類は夜間を中心に活動することから、夕方の防除が効果的である。なお、移動範囲が広いので、地域における一斉防除が望ましい。
- (3) 合成ピレスロイド剤は効果が高く、残効も期待できるが、天敵昆虫に対する影響が強く、ハダニ類など他害虫の発生を助長するおそれがあるので慎重な使用を心がける。
- (4) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守する。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

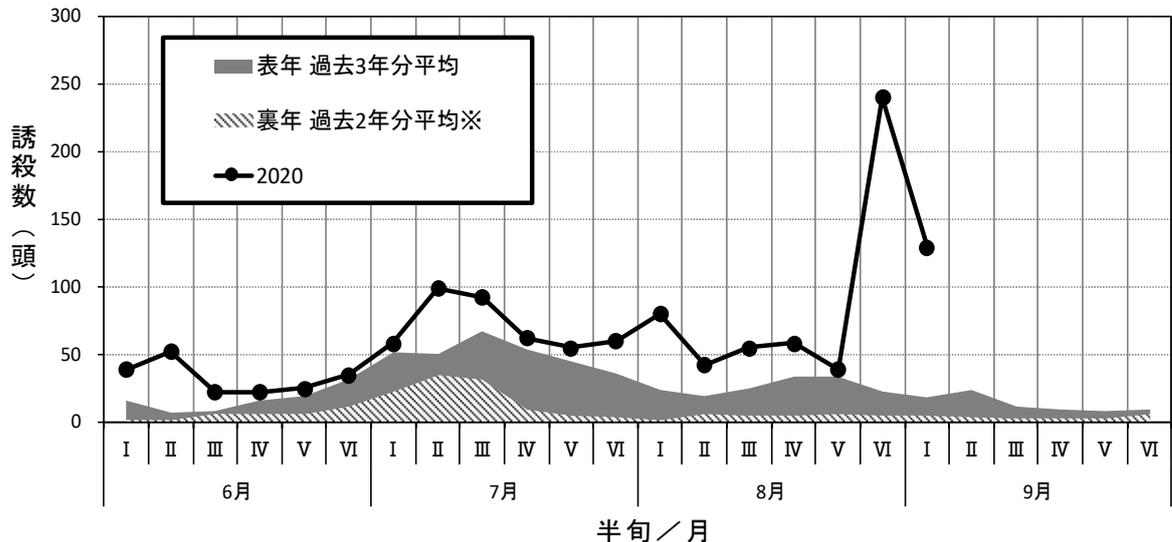


図 1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移(朝来市)

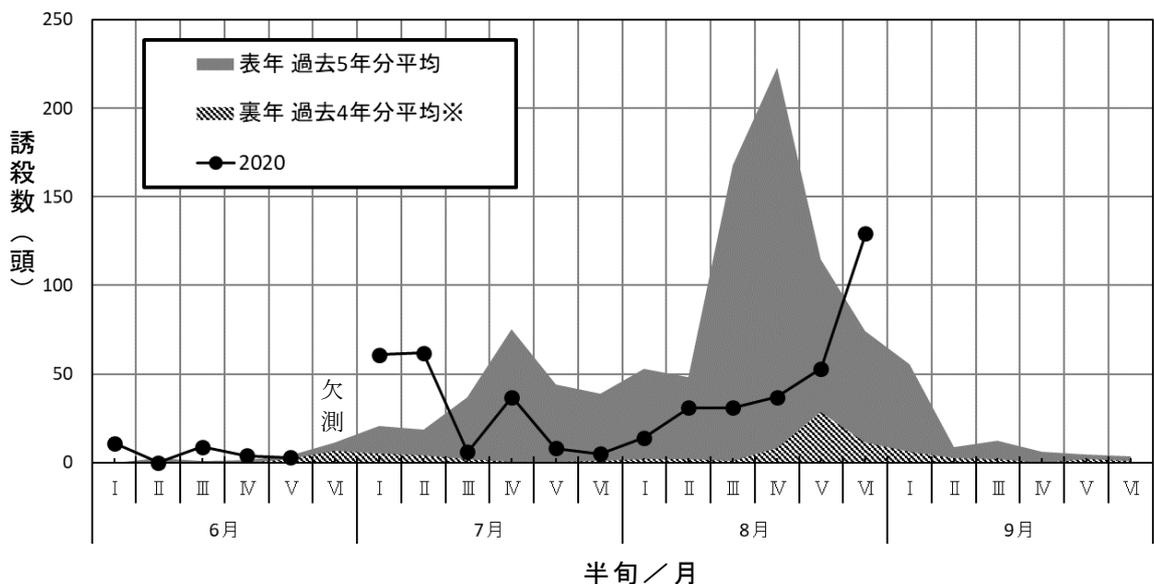


図 2 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移(朝来市)

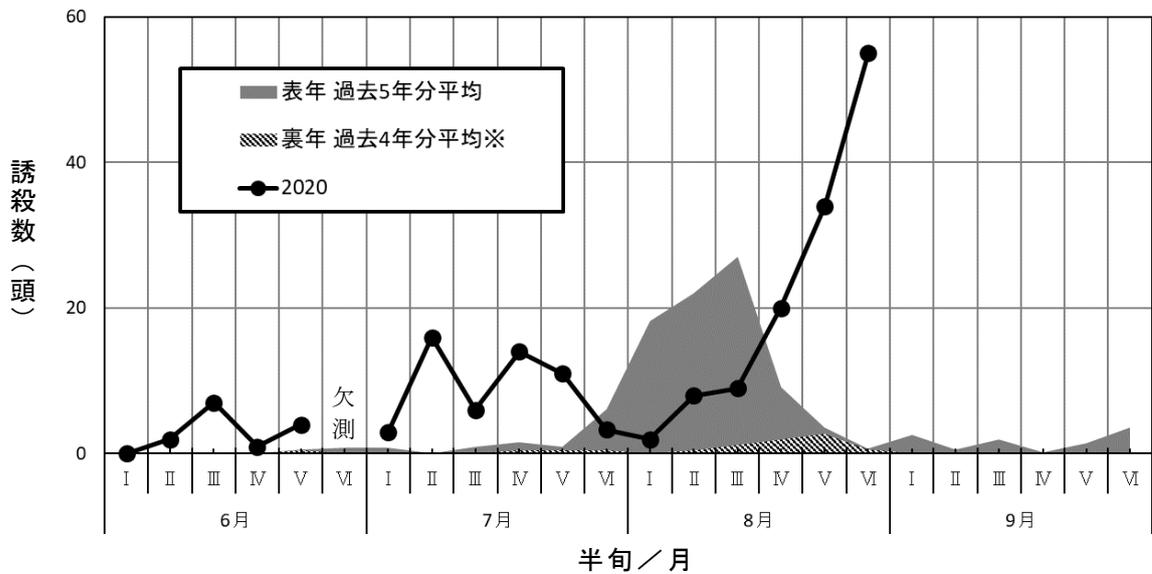


図3 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数の推移(朝来市)

※2019年は裏年としては特異的な多誘殺があったため、裏年の平年値から除外した(図1~3)



写真 果樹カメムシ類の成虫(左: チャバネアオカメムシ、右: ツヤアオカメムシ)

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222